科目ナンバリング	U-LAS01 10001 LJ38						
授業科目名 <英訳>	日本史Ⅰ Japanese History I			担当者所属 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授　　吉江　崇		
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	歴史・文明(基礎)		使用言語	日本語	
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2025・前期	曜時限	月2/月3	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

【日本古代の国家と政治―摂関政治への転成―】
日本における古代国家の様相を政治史という側面から把握し、古代日本の特質について理解することを目的とする。今期は、摂政・関白による政治へと、政治の姿が転成する１０世紀前葉から後葉にかけての政治動向を取り上げ、先行学説を紹介するとともに批判的に検証を行う。こうした作業を通じて、国家の様相やその変遷を客観的に捉える視座を養うことを目指す。

[到達目標]

日本古代史における正確で幅広い知識を獲得するとともに、これまでの研究の流れを自分の力で整理し、それらを客観的・批判的に把握して、自らの歴史像を組み立てるための技術を習得する。

[授業計画と内容]

７世紀後葉に成立した日本の律令国家は、８世紀後葉から変質をはじめ、長い過渡期を経て１０世紀後葉に摂関政治へと転成した。今期は、摂政・関白が常に置かれるようになり、摂関政治へと転成する１０世紀前葉から後葉にかけての国家の様相を、政治史を中心にしながら考察する。まずは摂政と関白との関係性が整理され、摂関政治が確立していく様子を概観する。次いで、内裏の焼亡や財政制度の再編、古代銭貨の途絶といった観点から、摂関政治が確立する背景としての社会の変質について考察する。最後に、安和の変や花山天皇の出家を取り上げながら、天皇の外戚と摂政・関白との関係がどのように変化していったのかを論じ、摂関政治の特質について検討する。

第１回　イントロダクション―平安時代の時期区分と摂関政治―
第２回　摂関政治の確立過程（１）
第３回　摂関政治の確立過程（２）
第４回　内裏の焼亡にみる宮廷社会の変容（１）
第５回　内裏の焼亡にみる宮廷社会の変容（２）
第６回　財政制度の再編と社会（１）
第７回　財政制度の再編と社会（２）
第８回　古代銭貨の途絶（１）
第９回　古代銭貨の途絶（２）
第１０回　安和の変の歴史的位置（１）
第１１回　安和の変の歴史的位置（２）
第１２回　政変としての花山天皇の出家（１）
第１３回　政変としての花山天皇の出家（２）
第１４回　総　括
《期末試験》
第１５回　フィードバック

日本史Ⅰ(2)へ続く↓↓↓

日本史Ⅰ(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

期末試験（筆記）にて成績評価する。

[教科書]

使用しない
授業中にプリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

シラバスなどを通じて授業の進行を確認し、各回の授業内容を想定しながら予習をすること。

[その他（オフィスアワー等）]

授業は講義形式で行う。

[主要授業科目（学部・学科名）]

総合人間学部、総合人間学部